



Leading Edge



Greeting

早いもので JAA も 2 年目に突入し、季節報も第 5 弾になります。

今年の 1 月にはアメリカを訪問し、現地エアボートメーカーやエアボートユーザーとの交流を図り、日本でももっと多くの方々にエアボートを知って頂きたいという思いを新たにいたしました。本年は、昨年の運営で得られた経験を活かし、各種イベントの企画・運営やグッズの製作・販売などを通じて、日本国内におけるエアボート知名度の向上を図ってまいりたいと思います。

Contents

1. 会長挨拶
2. 協会の目的
3. 活動報告
4. 新体制のお知らせ
5. アメリカ視察報告 Part1
6. Airboat Tips
7. 今後の予定

1. 会長挨拶

新緑を揺らす風が気持ちのいい季節になりました。皆様に置かれましてはかがお過ごしでしょうか？本年より会長に就任した佐々木と申します。よろしくお願いいたします。

さて、JAA は 2 年目に入り、活動範囲をどんどん広げながら前進しております！エアボートを日本に普及させるため、JAA 役員と共にエアボートの楽しさや普及に向けた様々な施策をお届けできればと思っております。

2. 協会の目的

Japan Airboat Association は「日本国内におけるエアボートの普及や安全管理」を目的として活動を行っています。また、この目的を達成するために以下の 5 項目を柱に活動していきます。

Popularization: 各種イベントの実施

Safety: 航行マナー講習、整備講習の実施

Leisure: レジャー用エアボートの提案

Rescue: 救助用エアボートの提案

Volunteer: エアボートによる地域貢献、災害時の救助活動の実施

3. 活動報告

今シーズンは体制を新たにし、初のアメリカ視察、Web ページの更新を行いました。夏のイベントの企画も着々と進めております！

- 新体制開始
- アメリカ視察
- 役員会
- Web ページ更新

4. 新体制のお知らせ

2015 年より、体制を一新しましたのでお知らせいたします。以下のメンバーで一致団結し、さらなる JAA の発展に努めていきます。

会長 : 佐々木 甲

副会長 : 村石 秀紀

会長補佐 : 林 洋司

広報 : 細谷 知広

広報 : 本田 美津子

広報 : 園田 直美

会計 : 鈴木 信行

会計 : 江田 京子

5. JAA アメリカ視察報告 Part1

2015 年 1 月 26 日から 2 月 3 日にかけて、佐々木、江田、細谷の 3 名で本場アメリカのエアボートメーカー視察及びエアボートフリークに出会う旅に行って参りました。新しい発見、そして素晴らしい人々との出会いに溢れた視察の内容を 2 回に分けてご報告させていただきます。

今回は最初の視察場所である American Airboat Visit(テキサス)について報告させて頂きたいと思います。

American Airboat はテキサス州オレンジ郡にある 45 年以上の歴史を持つエアボートメーカーです。敷地内には工場と事務所があり、外には大小様々なエアボートが並んでいます。また離れにはとても素敵なロッジがあり、目の前には青々とした芝とエアボートを走行させることが出来る大きな池が広がっています。今回は American Airboat 副社長のファーロン氏のご厚意で、こちらのロッジに 2 泊させて頂きました。今回のアメリカ視察では、他のエアボートメーカーにもお邪魔しましたが、エアボートの開発環境としては、こちらが最も良く、いきなり本場の環境の良さを感じさせられました。



湖上から見たロッジ

また、滞在中にはエアボートに 2 度乗せて頂きました。現地で初めてエアボートに乗せて頂いた時は、本場アメリカの地でアメリカの風を切りながらエアボートに乗っている自分が信じられなく、とても嬉しい気持ちで一杯でした。そして、その安心感のある乗り心地に驚かされました。ハルの形状もあるとは思いますが、何よりもエンジンパワーの余裕からくるものの様に感じました。

2 度目のライドは夜でした。前方を明るく照らすライト、そして船首部にコントローラーが装備されたエアボートで夜の沼地を進んでいきます。途中からファーロン氏が船首に立ち、ボウガンで片手に船をゆっくりとコントロールし始めました。何をするのかよくわからぬまま乗っていたのですが、突然ボウガンを水中目掛けて放ちます。なんと魚を狙っていたのです。ボウフィッシングというもので、魚が浅瀬を泳ぐ際に水面に出来る波紋を見て追いかけて、近づいたところで矢を射るのです。



ボウフィッシング用エアボート

弓にはリールが取り付けられてあり、矢と糸でつながっています。初めて見た時は、今まで考

えたこともなかった漁の仕方に驚くと共に、少し残酷な気もしましたが、獲った魚はホームレスの方に差し上げるとのことだったので少し安心することができました。

そうとわかればやってみるしかありません。佐々木、江田、細谷の順にやらせて頂いたのですが、一度やり始めると皆夢中になってしまいうほど楽しいものでした。

この、ボウフィッシングは水面の波紋を手掛かりに魚を追うため、浅瀬でないと行えません。正にエアボートの特徴を利用したレジャーであり、エアボートの新しい楽しみ方を知ることができました。この体験を通してファーロン氏との距離を一気に縮めることが出来ました。(Part2 に続く)



ファーロン副社長と

Special thanks to American Airboat Corp.
(<http://americanairboats.com/>)

6. Airboat Tips

皆さん、こんにちは。

Airboat Tips第5回です。前回に引き続きプロペラについてお伝えしたいと思います。

今回は、なぜプロペラがねじれているかについてご説明したいと思います。

プロペラが推力を発生させる理屈は前回までのTipsにてお話させていただいた通りで、翼が揚力を発生させるのと同じです。限度はあるのですが、プロペラのねじれ(ピッチ)が大きくなること(迎え角を大きくすること)と、プロペラの回転速度が速くなることで推力は大きくなります。

プロペラは回転する、というのが翼との大きな違いです。回転するプロペラは、回転軸の内側から外側に行くにつれて周回速度(プロペラが空気の中を進む速度)が早くなることはお分かりでしょうか？

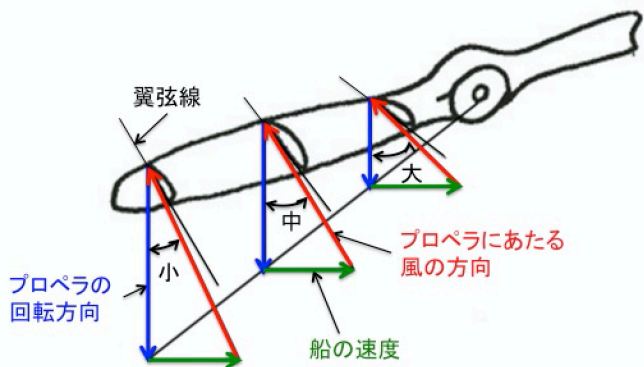


図1 プロペラのねじれ

更にエアボートは前進するため、回転するプロペラには前方から風が当たります。

そのため、回転方向の速度と前進方向の速度が合成された気流がプロペラに当たることになります。図1を見ていただくとわかる様に、プロペラの先端に行けば行くほど、プロペラの回

転方向とプロペラに当たる風の方向の作る角度がだんだんと小さくなっていることがわかります。

この合成された気流に対して、一般的にはプロペラのピッチを3〜4度とするのが良いとされています。

内側と外側で周回速度が異なることを考慮し、気流に対する各位置での迎え角(ピッチ角)を一定にして、均一に推力を発生させる為に、プロペラはねじれているのです。

7. 今後の予定

5月

JAA Meeting - Summer 2015
in Sagami River

6月

USA Marine Training 訪問

7月以降

JAA Meeting - Summer 2015
in Inawashiro
JAA Meeting - Summer 2015
in Hamanako